

- 南那須地域は中山間地で、新規就農者は定年帰農者が中心で高齢化により生産者が減少し、産地の規模を維持するのが困難になりつつある。
- 平成30(2018)年度から、地域の主力品目である「なし」「トマト」「いちご」において新規就農者の受入体制や研修体制、サポート体制整備を目指して普及活動を重点的に展開した。
- 令和2(2020)年11月24日に「南那須地域新規就農者支援対策協議会」が設立され、令和3(2021)年度研修生の募集が「梨コース」で開始された。

具体的な成果

1. 新規就農者支援組織の整備
 - 組織の名称
南那須地域新規就農者支援対策協議会
 - 協議会の事務局
那須南農業協同組合(営農部)
 - 事業の内容
 - ・新規就農相談会への出展、就農体験会の開催
 - ・新規就農者研修の実施(先進農家における技術習得等)
 - ・農地、空き施設のマッチング
 - ・就農後のフォローアップ
 - 活用する補助事業等
 - ・農業次世代人材投資事業(準備型)
 - ・産地人材育成確保事業
 - ・地域おこし協力隊



2. 新規就農者の確保
 - 就農体験会の開催
 - ・令和元年度 6名参加(2回開催)
 - ・令和2年度 9名申込み(台風で中止)
 - 研修事業の開講
 - ・研修の名称
「南那須農業アカデミー」
 - ・令和3年度の研修
「梨コース」を実施



普及指導員の活動

- 平成30年度
- 市町やJAに働き掛け「南那須地域就農支援ネットワーク会議」を設置。
 - 「なし」、「トマト」、「いちご」を、研修受入を想定した就農支援対象品目とした。
 - 「新・農業人フェア」に出展。
- 令和元年度
- 生産団体が主役の農作業体験会を開催。
 - 就農支援のための組織設置について、時期や関係機関及び生産者の役割について検討・合意。
- 令和2年度
- 「南那須地域新規就農者支援対策協議会準備委員会」を設置。
 - 「南那須地域新規就農者支援対策協議会」設立。
 - 技術習得研修を行う若手生産者を「とちぎ農業マイスター」に認定。
 - 協議会が行う研修事業「南那須農業アカデミー」の令和3年度研修生の募集。

普及指導員だからできたこと

- ・ 地域密着活動の中で産地の維持に危機感をもつ若手生産者やJA担当者の意向や実情を把握できた。
- ・ 国や県の就農支援制度を地域の実情に応じた形で提案しコーディネートすることで、関係機関内の連携が強化され、地域が主役の受入体制を整備できた。

栃木県

新規就農者受入体制整備による園芸産地の強化

活動期間：平成28～令和2年度

1. 取組の背景

南那須地域は中山間地に位置し小規模農家が多く、新規就農者の多くは定年帰農者であり、設備投資が少なく地域の特徴に合わせた少量多品目の園芸に取り組んでいます。

近年、高齢化、後継者不足により生産者が減少し、産地の規模を維持するのが困難になりつつあり、新規就農者確保が急務となっています。

そこで、地域の主力品目である「なし」「トマト」「いちご」において新規就農者の受入体制や研修体制、サポート体制整備を支援します。

2. 活動内容（詳細）

(1) 指導・支援の体制

南那須地域の関係機関・団体に働きかけ、就農支援ネットワーク会議を設置しました。会議では、地域の特徴に合わせた体制整備について検討を重ね、研修受入体制を整備することとしました。構成機関それぞれの役割として、市町・農業委員会・農業公社は研修中・就農後の行政的支援や住居・農地の確保について、JA なす南は技術習得研修について担当することとしました。特に、JA なす南は、生産者と密に連携を取り、生産者の合意、協力の上で体制が整えられるよう調整を図りました。

(2) 活動経過

ア 就農支援対象品目・研修受入組織の選定

平成30(2018)年度に南那須地域で生産が盛んな「なし」、「トマト」、「いちご」を、研修受入を想定した就農支援対象品目とし、各部会に働きかけを行いました。

中でも、JA なす南梨部会の若手生産者で構成する研究部では、生産者数、栽培面積が減少し、高齢化による梨園の遊休化が進む現状から産地の維持に危機感を持っており、研修の受入に積極的でした。そこで、規模縮小及び廃業とする意向を持つ生産者と新規就農希望者とのマッチングを図ることとしました。

イ 就農支援イベントへの出展

平成30(2018)年度に、東京で開催された「新・農業人フェア」に就農支援ネットワーク会議としての初出展を支援しました。多くの就農相談があり、手応えを感じました。以降、毎年出展申込みを行っています。令和2年度には、新たな体制でリモートでの出展を支援しました。

ウ 農作業体験会の実施

令和元(2019)年度から、なしの摘果作業や剪定作業を実感してもらう体験会の開催を支援しました。体験会ではなし管理作業が未経験の参加者に対し、研究部員がなしの栽培概要や作業の手順を丁寧に指導、質問に答えるなどして交流を図り、具体的な就農のイメージを提供しました。

令和2年度には収穫体験会の開催を計画しました。リモートでも参加できるよう機材を準備しましたが、台風接近のため中止となってしまいました。



写真1 「梨農作業体験会 in 南那須」 摘果作業体験

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 新規就農者支援組織の整備

令和2(2020)年11月24日に「南那須地域新規就農者支援対策協議会」が設立されました。本協議会が農業次世代人材投資事業における研修機関として認定されるよう、研修カリキュラム等の作成について支援・助言を行いました。その結果、研修生が準備型を受給できる体制が整い、令和3(2021)年度研修生の募集が「梨コース」で開始されました。



写真2 「南那須地域新規就農者支援対策協議会」 設立総会

(2) 新規就農者の確保

体験会以降も継続して就農相談を実施して研修の受講や就農に向け準備を進めている方がいます。また、令和2(2020)年度体験会は県内外から多数の申し込みがあり、今後の新規就農者獲得につながることを期待されます。



写真3 協議会の研修「南那須農業アカデミー」 紹介パンフレット

(3) 関係機関内の連携強化

協議会の事業を検討している中で研修中の支援（資金等）が課題となり、

「地域おこし協力隊」等の制度活用を提案してきました。そこで市農政課は、市まちづくり課が「地域おこし協力隊」の募集テーマを市役所全体に募集した際、「新規就農部門」を提案し創設されることとなりました。こうして就農準備期の受入メニューに選択肢が増えました。

また、令和2年度に協議会として新・農業人フェアに出展した際には、市移住担当者も同席し、具体的な就農相談に熱心に対応しました。

これらの対応から市役所内の関係部局の連携が強化されました。

4. 農家等からの評価・コメント（JAなす南梨部会研究部）

- ・令和3年4月から研究部員の経営内で技術習得研修を受け入れることとなった研修生のやる気満々で意欲的な姿勢に、我々も「しっかりサポートしていかななくては」と責任の重さに身が引き締まる思いです。
- ・これから一緒に産地を作っていく方を、ともに学びあい、切磋琢磨していく仲間として受入れ、大切に育成していきたいと思えます。

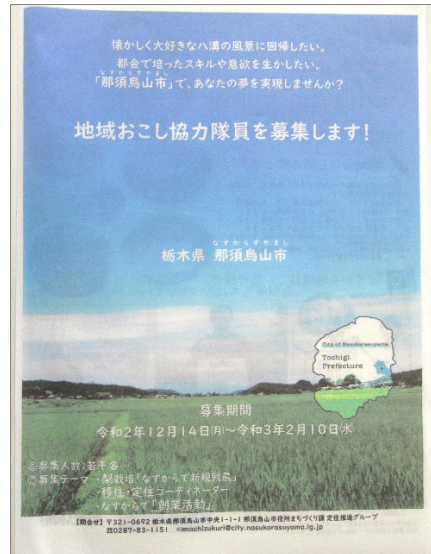


写真4
那須烏山市地域おこし協力隊員
募集チラシ

5. 普及指導員のコメント（塩谷南那須農業振興事務所経営普及部・主査・小玉・小幡）

当地域においては、地域内外から、農業内外から人材を確保し育成するための組織が設立されました。これは、産地維持の危機感を関係機関・団体と共有し、目標を持って継続的に支援してきた成果だと思えます。

また、梨部会研究部のみなさんが研修生受入れ先として積極的に名乗りを上げたことが、この取り組みを進める大きな契機となり、その姿勢には大変心強いものを感じました。

一方、新規就農者が農業経営を開始するには、栽培技術のノウハウだけでは難しいものがあります。農地や施設・設備の取得の他、安心して暮らせる環境づくりなど、関係機関の支援策が効果的に実施されるようコーディネートしていきたいと思えます。

6. 現状・今後の展開等

(1) 研修受入組織の拡充

今後は、JAなす南梨部会の取組を参考に、トマト部会、いちご部会でも受け入れていく計画であり、実現に向けて支援を行います。また、塩谷地域においても南那須地域の事例が波及するよう働きかけます。

(2) 研修生の受入と就農・定着支援

産地の維持発展のためには、農家後継者だけでなく、Uターン者や移住者を視野に入れて研修生、就農希望者を呼び込む必要があります。さらに、新規就農者の定着に向け、就農前の技術研修や就農後の営農・生活支援等が実施できるよう、市町・JA・市農業公社・市町農業委員会が連携した体制の拡充を支援していきます。